

## 薬剤師によるアドレナリン自己注射（エピペン®）薬剤指導の有用性

共同演者：○石原奈央子<sup>1</sup>、齋藤あゆみ<sup>1</sup>、井上真穂<sup>1</sup>、岡本沙央理<sup>1</sup>、藤原康浩<sup>1</sup>、垣尾尚美<sup>1</sup>、百々菜月<sup>2</sup>、田中裕也<sup>2</sup>、合田泰志<sup>1</sup>

兵庫県立こども病院 薬剤部<sup>1</sup>  
アレルギー科<sup>2</sup>

### 【目的】

当院では食物負荷試験目的で入院する患児及び保護者に対して、薬剤師がエピペン®の自己注射手技を含む服薬指導を行っている。今回、エピペン®に対する理解度や意識変化を調査することで、薬剤師による指導の有用性について検証したので報告する。

### 【方法】

2020年8月3日～2021年3月31日の期間に入院し、エピペン®を保有していた患児（のべ64名）を対象として理解度調査（15点満点）と手技確認（8点満点）を行った。期間中、複数回入院した患者（2回目27名、3回目10名）には同様の調査と指導を行い、指導回数による効果を比較検証した。

### 【結果】

理解度調査の平均点は、初回8.4点、2回目11.6点、3回目13.1点であり指導回数につれて有意に改善が認められた（ $p < 0.05$ ）。手技確認の平均点は、初回7.0点、2回目7.6点、3回目7.8点で、初回から2回目では有意に改善が認められた（ $p < 0.05$ ）。また、エピペン®使用に対する不安を問う項目では、指導により不安軽減傾向が認められた。

### 【結語】

食物負荷試験の際、薬剤師による指導を重ねることにより患児や保護者の理解度、手技の改善が認められた。また、これらの改善に伴うと考えられる使用に対する不安の軽減も認められ、継続的な薬剤指導の有用性が示唆された。